うだつの町並み

美馬市

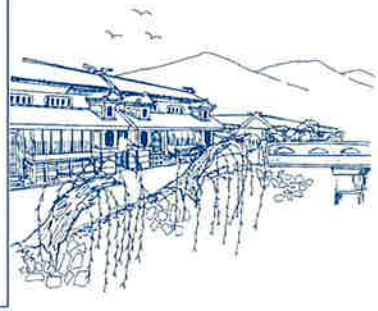
ここは……

脇町

わきまち

うだつ 桧・卯建

町家の妻壁の横に張り出した袖壁で、防火の役目をした。江戸から明治にかけて富裕な家はこの卯建をあげた立派な家を造っていた。ことわざ事典に、いつまでもぐずぐずしていて一向に出世のできないことを「うだつが上がらぬ」と記してある。



重要伝統的建造物群保存地区

（昭和63年12月16日、全国で28カ所目の選定）

【美馬市脇町の町並み】

往時脇町の中心は南町で、約四三〇mは明治以前の本通りであった。

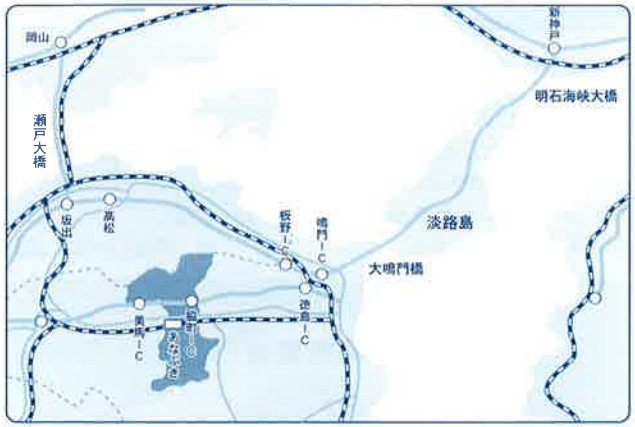
一五八五年阿波藩主となった蜂須賀家政は第一家老稲田植元を阿北の要衝脇城代として配した。

植元は阿波藍を奨励し、藍商を中心とした商人の町とした。

古い商家の面影を伝える本瓦ぶき、塗籠め壁の重厚な家々が軒を連ねている。

隣家と接する二階部分には「うだつ」という火よけ壁を持つ家が多く、日本でも珍しい古い町並みである。

また茶の子町は壁に囲まれた静かな落ち着いた小路である。



●お問い合わせ

美馬市観光文化資料館

〒779-3610　徳島県美馬市脇町大字脇町92
TEL 0883(53)8599 / FAX 0883(53)0961

美馬市経済建設部商工観光課

〒777-8577　徳島県美馬市穴吹町穴吹字九反地5
TEL 0883(52)5610 / FAX 0883(52)1704

▶国見家

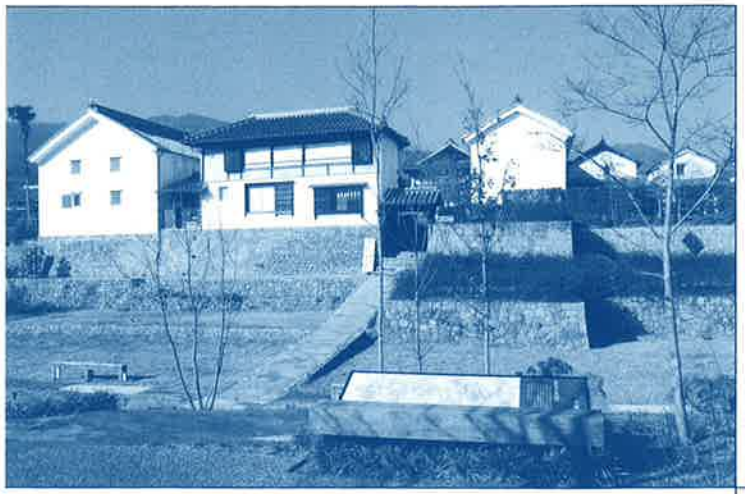
主屋の建設は宝永4年である。敷地は表通りから吉野川に達する広いもので、川岸に門があり石段を通じて吉野川に出ることができた。規模は田村家とよく似ているが、屋根架構は、登り梁折置組み中引梁で合掌に組み、その上に直接棟木を置いている。指物を用いず、丸太梁に鴨居と敷居を入れ丸太に近い柱があり古風である。

第12世将棋名人
◀小野五平翁の生家・平田家

天保2年10月6日木屋五平（宿屋）で生まれ成長した。泊り客のさす将棋を見たのが病みつきとなり、三度の飯よりも将棋が好きになった。持って生まれた素質とその熱心さのため、7、8歳の頃すでに五平を負かすものはなかった。19歳の時江戸に出て将棋名人天野宗歩に弟子入りした。明治31年ついに第12世将棋名人となった。9段終身名人は将棋界の最高峰であり、 美馬市脇町が生んだ偉大な人物である。大正11年6月91歳の高齢で没した。

◀田村家

宝永8年4月の棟礼をもち、町並みで2番目に古い建物とされている。敷地は表通りから吉野川川岸まで占めていたと言われ、藍商を営む赤谷屋のものであった。田村家は明治初期に入居し現在に至っている。主屋の規模は桁行8間に梁間4間、表に1間、裏に身舎（もや）の屋根をそのまま葺き下した1間半の下屋が付く。



舟着場公園

美馬市脇町は江戸期から明治期にかけて阿波藍の集散地として栄えこの一帯は河川交易の玄関口（舟着場）であった。段状に連なる石垣はその遺構であり、その高さは往時の吉野川の氾濫の高水位を物語るものである。

美馬市指定文化財

▼吉田家（藍商佐直）

舟着場と土蔵

寛政4年に建てられ、美馬市脇町最大の床面積をもつ、かつての藍商の家である。母屋のうしろには大きな蔵が続き、一番奥手にある門を開けると高い石垣が設けられてある。かつては吉野川がこの石段の近くを流れていて、船荷の積み降ろしをしていたそうだ。

入場料 大人510円 小人250円
開館時間 9時～17時
電話 0883-53-0960

しとみ戸

蔀戸

格子組みの裏に板を張り、日光をさえぎり、風雨を防ぐ戸で、昼は蔀梁（しとみばり）の内に設けた戸決（とじゃくり）に納めておき、夜はおろして戸締りとする。

むしこ窓

虫籠窓

格子のようにしている窓のことで、木を使った窓や、練り土に漆喰を塗り堅牢に作り盗難除け、また部屋の明りとり、風通しをよくするために作られたが、時代とともに装飾的な面も兼ねるようになった。

美馬市指定文化財

▼脇町劇場（オデオン座）

昭和9年に創建された回り舞台や花道のある劇場。戦後は映画館として利用されました。平成8年に松竹映画「虹をつかむ男」の舞台となりました。

入場料 大人200円 小人100円
開館時間 9時～17時00分
火曜日休館
電話 0883-52-3807

格子造り

細かい角木を縦横に間をすかして組み合わせ、窓や出入口に取り付ける建具のことで、出格子などは旧商家が威勢を表わす建築様式である。